

リメイク用の布地を作る

①着物の選び方と確認

どんな着物でも生かし方次第ですてきな洋服に生まれ変わります。錦紗や縮緬、綸子などの晴れ着、紬、木綿、麻などのふだん着、帯や下着、襦袢や裏地、前掛け、さらには半纏や旗、軍笥の油単に至るまで、およそ布地であればすべて着物リフォームの素材として考えられます。ただ古いものでいたみが激しいものや、色があまりに褪せてしまったものは、あきらめましょう。せっかく作っても、すぐ破れて結局着られないなどと

いったことになりません。穴が開いたり汚れないかなどを、よくチェックしましょう。布自体が弱っていないかどうかよく吟味してください。

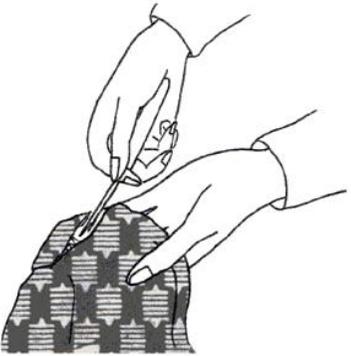


布をたて、よこに引っ張ってみて、いたみ具合を見ます。

結局着られないなどと

②着物をほどこく

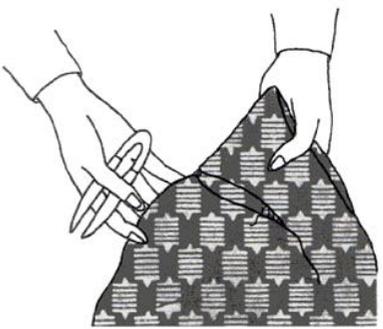
できるだけ布地を傷めないよう丁寧に扱って。無理してを引っ張らず、糸きりばさみやリッパーで縫い目を切って行きます。



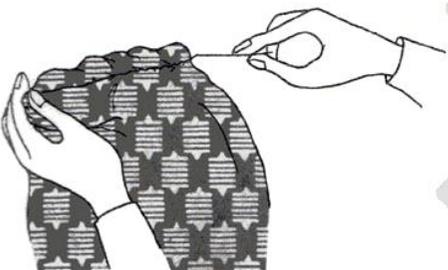
最初に衿と共衿をはずし、縫われている反対の方向からはさみを入れていきます。



衿の着物は、裾から始めて脇、おくみ、袖の順に表地と裏地とをはずしていきます。



衿や袖の最後の止めの部分は念入りに縫ってあるので、その手前からほどこくようにします。



止めの部分以外はほとんどが糸を引っ張ればすーっと面白いうに抜けていきます。

③ほどこいた 着物を洗濯する

水洗いで

ほとんどのものは水洗いでいけます。かけ衿をはずして、中性洗剤で試し洗いをします。

色落ちしないか、破けないかなどを見ます。大丈夫だったらほどこいて手洗ひまたは洗濯機のソフトコースで洗います。水洗ひしてもダメなものは、リフォームしても無駄と思っいていいでしょう。縮んでも縮んだままの寸法で作ればよいので、縮みをそんなに恐れることはありません。

ドライで

縮緬や錦紗などで振袖、留袖などの晴れ着、刺繍のあるものなどは、ほどこいてドライにするのが難しいです。洋服のドライのやり方で大丈夫です。洗い張りなどにしたら金額がかさむので、クリーニング屋さんで断っておきましょう。

④アイロンのかけ方

アイロンは生乾きのときにかけるのがコツです。完全に乾いてしまうと細かいしわを取るのに苦労します。薄手や絹のものはやはり、アイロンネットやあて布をしてかけた方が無難です。縮んだ布を無理にのばすことはせず、成り行きに任せます。